



タキイ交配
タマネギ

「ボルト」

- ポイント**
- ✓ 暖冬でも栽培しやすい
高い晩抽性
 - ✓ 玉じまり良好で、
皮の色つやがよい
 - ✓ 寒さに強く、低温期の
肥大性にすぐれる



■「ボルト」適期表

月	9	10	11	12	1	2	3	4	5
中間地	●	○	×						■
暖地	●	○	×						■

（9月～5月の収穫可能）



← 圃場で収穫後、風乾をおこなっている「ボルト」。早生種としては濃色皮で、皮つきがすぐれる。

玉じまりがよく草姿立性で 作りやすい**晩抽早生種**！



タキイ研究農場
鈴木 良平

2016年の全国的なべと病の大発生以来、府県産地では安定生産に向けた取り組みが模索され、また、新規産地でのタマネギ生産も注目を浴びるようになりました。

作型別での動向を見ますと、気象への不安が続く中で、在圃期間の短い早生タマネギの重要性が高まっています。しかし、その早生タマネギの作柄も、冬場の天候に左右されやすく、抽苔や分球が発生するなど、年々不安定になっているのが現状です。

早生タマネギは大玉の青切り出荷が定番ですが、暖冬の年には肥大しすぎて供給過剰となり、市場価格が安定しない要因の一つになっています。

そこで、「安定した晩抽性を備えた玉じまりのよい早生タマネギ」を目標に育成を行ってきた成果を、このたび「ボルト」と命名して発表いたします。近年の暖冬でも対応できる晩抽性と、早生種としては皮の色つやにすぐれた高品質性を生かし、安定生産につなげていただけるように、品種特性と栽培のポイントを紹介します。

栽培ポイント

1 適期の播種・定植を守る
早生種としては晩抽の「ボルト」ですが、適期の播種・定植は他品種と同様に重要です。早どりをねらって早まき・早植えすると、生育が進みすぎて抽苔・分球の危険性が増すほか、葉枚数が多くなりすぎ、かえって熟期が遅くなったり、過繁茂によって病害が発生しやすくなります。逆に播種が遅れると、年内の生育が不十分になり、生育不良や肥大不足になる可能性があります。適期表を確認し、栽培地域に適した播種・定植期

2 早春からの肥効を高める
定植後は速やかに活着させ、早春から肥効を高めることが、収量を確保するにあたって重要です。基本はマルチ栽培で、元肥・発肥料などを使用し、全量元肥で施用します。露地栽培では3分の2程度を元肥とし、残りを追肥として施用します。追肥は12月下旬～1月上旬と、2月上中旬を目安に、2回程程度施します。肥料の遅効きは葉勝ちになりやすく、肥大の遅れや病害発生危険性が増すため、



←「ボルト」と同じく、晩抽性の早生種「スパート」。「ボルト」に比べ収穫期が遅い代わりに、やや大玉に仕上がる。

「スパート」との使い分け

「ボルト」は、「スパート」より収穫期が5日程早く、玉のしまりがすぐれるのが特色です。「スパート」は、より生育が旺盛で収量性にすぐれます。両品種ともに晩抽性が安定しており、安心して作ることができますし、「ボルト」の後に「スパート」を収穫する、というリレーも可能です。

3 早めの病害防除
「ボルト」は早生種としては草姿が立性で、茎葉はかたくしまります。そのため病害には比較強いのですが、べと病に対して

注意が必要です。ては、他の品種同様に早めの防除を心掛けてください。特に生育期間の短い早生種は葉のダメージが玉肥大に大きく影響を与えるため、予防的な防除で病気を出さないことが重要です。

▶ 甲高で玉ぞろいのよい早生種

早生種としては比較的甲高で、球形のそろい性にすぐれます。暖地では4月中旬から、中間地でも4月下旬から収穫可能です。

▶ 抽苔や分球が少なく作りやすい

抽苔や分球の発生が少なく、さらに病害に対しても比較的強いいため、安心して栽培できます。また、草姿立性で葉折れが少なく、育苗時の苗立ちもすぐれ、栽培管理作業が行いやすいという特長もあります。

▶ 玉じまりが良好

「ボルト」は従来の早生タマネギと比較して、玉じまりがすぐれているのが大きな特長です。厚く色つやのよい皮が玉に密着しているため、収穫作業中や出荷時に玉が傷む心配が少なく、安心して作業することができます。

▶ 寒さに強い

冬の寒さによる葉傷みが少なく、低温期の肥大性にすぐれます。そのため、基本的には暖地での栽培が適しますが、中間地での栽培も可能です。

収穫は晴天の日に

早生品種は球形状が仕上がり次第、青切りで収穫されることが多いですが、「ボルト」の玉じまりを生かす場合は、倒伏ぞろい約1週間後の収穫を目安としましょう。収穫は晴天の日をねらい、皮を圃場で乾燥させることで、色つやのよく品質の高いタマネギに仕上げるすることができます。

タマネギ特性比較

品種名	早晩性	収穫期	球形	球重 (g)	収量性	貯蔵性 (注)
ボルト	早生	4月中旬～5月上旬	甲高	300	◎	8月末
スパート	早生	4月中下旬～5月上旬	甲高	320	◎	8月末
ソニック	早生	5月上中旬	甲高	320	◎	8月末
ターボ	中生	5月下旬～6月上旬	豊円	320	◎	12月末
ネオアース	中晩生	6月上中旬	豊円	350	◎	2月末～3月
ケルたま	晩生	6月中下旬	中甲高	280	◎	3月末

(注) 吊り貯蔵可能期間

「ボルト」栽培メモ

最適播種期	中間地	9月上中旬(露地～マルチ)
	暖地	9月中旬(露地～マルチ)
最適定植期	中間地	11月上旬(露地～マルチ)
	暖地	11月中旬(露地～マルチ)
施肥の目安 (10aあたり)	元肥：N成分で約20～25kgを全量、もしくは追肥する場合はその2/3を元肥とする。 追肥：全量元肥では施用せず、追肥する場合は約2回、各々N成分で約3～5kg。	
播種基準	本圃10aに対し50～80㎡の苗床を準備、4～6dℓ播種。条まきで条間8～10cm、播種溝の深さは6～8mm、種子間隔は10mm程度。	
定植基準	畝幅120～150cm、条間20～25cm、株間10～12cm	